

2. 不完了体 говорить 「話す to speak」 -完了体 сказать 「話す to speak」

このとき、体のペアとは何かが問題となる。ペアの規定が体そのものの規定に直結するからである。厳密な立場の研究者⁵は接頭辞法 1.a)によるものは体のペアではないとし、接尾辞法 1.b)によるものと 2.のみをペアとする。しかし、大多数の研究者は、1.b)と 2.以外に、1.a)の方法で形成されたもののうち、語彙的意味を持たない接頭辞[純粹に体的な接頭辞]が付加された場合(例. 不完了体 читать「読む」-完了体 прочитать「読む」)も体のペアと認めている。

このように、かつては体のペアとは、語彙的に同一で、したがってペアの一方は、他方の完了体変化形ないしは不完了体変化形と考えられていた。おそらく辞書は一般に編纂の経済性という点からこの方式を取り、1. 2.の方法による体のペアを同一見出しのもとに記載している。

しかし、ペアとなる二つの動詞(動詞形)の語彙的意味は必ずしも同一である必要はなく、近似的な意味をもちながらも、体という点で相関的な文法行動をする一対の動詞形という考えが近年優勢になりつつある。とはいえ、今なお体のペアの問題、したがって体そのものの規定はまだ完全には解決されていない。

次に体と時制との関係を見よう。ロシア語では動詞の体の形態と時制の形態は峻別される。時制と体の形態を不完了体 читать-完了体 прочитать「読む」の一人称単数形を例に表示し、時制形態の特徴を素描する。

体\時制	過去形	現在形	未来形
不完了体	читал	читаю	буду читать
完了体	прочитал	прочитаю	なし

1. 不完了体過去形、未来形の動詞は発話時点とは隔絶した動作・過程を表し、かつ時制間の区別が明瞭である。
2. 完了体の時制形態は発話時点との隔絶性という特徴については無表示項であり、時制形態のいわゆる転用がまれではない。
3. 完了体の現在形(例. прочитаю)については、名称が様々である。ロシア語では意味「～を読んでしまう」の点から、完了体の未来形と呼ぶことが多いが、形態的観点から完了体現在形と呼んだり(我々もこの立場)、完了体非過去形、完了体現在・未来形とも呼ぶ。

次に、ロシア語における体の意味の階層である。一般に、完了体、不完了体の意味

は、それぞれ、抽象度の高い順に、一般的意味、個別の意味、付加的な意味・ニュアンスという3つの階層に区分される⁶。一般的意味とは、完了体なり不完了体のすべての動詞に存在する意味〔不変の意味〕で、現実の言語に現れる多様な体の意味が集約、抽象化された個別の意味をさらに抽象化してえられる意味である。

3つの階層の意味について研究者の間では一致した見解はないが、詳細は割愛し、ここでは本稿に必要な範囲に限って個別の意味を略述する。

これから述べる分類はマースロフが1959年に行い、その後の研究の原型となったものである⁷。なお、下線部はロシア語で表す場合、該当する体の動詞が用いられる箇所を示す。

完了体の個別の意味

1. 具体的事実の意味：彼は私に質問を繰り返してくれた、のように、具体的一回の動作について述べる。このように完了体は通常具体的場面で用いられるので、完了体が用いられると読み手（聞き手）は具体性を感じる。
2. 一括化の意味：彼は数回自分の質問を繰り返した、のように、物理的には複数回でも心理的に一回「一気に～する、立て続けに～する」と見なされる動作について述べる。
3. 例示的な意味：あの犬は塩辛いものも食べるのですよ、のように、ある一つの象徴的、具体的動作を取り上げて、それを対象の性質規定などに用いる。

不完了体の個別の意味

1. 具体的過程の意味：若い女性が車両の窓辺に坐って読書をしていた、のように、具体的に進行している動作を表す。
2. 無限定反復の意味：時々私は特に好きな作家達を読み返しました、のように、限定的回数の反復は完了体が表し、それ以外は、仮に完了した動作であっても反復されると通常不完了体が表す。
3. 一般的事実の意味：あなたはこの小説を読んだことがありますか、のように、動作が完了したかしなかったかに関係なく、ともかく読むという動作をおこなったか否かのみを問題とする場合に現れる意味である。

ここから分かるように、不完了体の2と3は物理的には完了する動作も意味するのである。完了体＝完了、不完了体＝未完了という等価的二項対立による解釈は体の対

立を十分に説明できず、体の研究において欠如的二項対立 **privative opposition** が援用されるに至った所以である。しかし、この解釈も体の多様な用法・意味を包括的には説明できないと批判され、この批判を一つの契機に現在、体研究の再検討が行なわれている⁸。

最後に、動詞の語彙・意味分類と体との係わりを考えてみよう。一般に、言語を問わず言語外現実の事象はすべて、状態、出来事それに過程の3つの存在論的カテゴリーとして認識されるが、このカテゴリーは、ロシア語では、状態動詞、出来事動詞、それに過程を表す動詞に反映される。

体とそれぞれの動詞の関係を考えるならば、完了体は常に動作動詞で動作を表し、ペルフェクト的用法の場合のみ状態を表現する。不完了体の場合には、状態動詞、出来事動詞、それに過程を表す動詞のすべてが存在する。そこで、出来事という事象を表現する場合には、文脈、語彙的情報が乏しいと、完了体、不完了体の両方が用いられ、競合する可能性が出てくる。これが体の競合といわれる場合である。

では、具体例に移る。

II.

(1)あの人 は もう来た。

Он	уже	пришел / приехал ⁹ .
he	already	arrive, pf. past. m. sg. / arrive, pf. past. m. sg. not on foot.

具体的一回の動作の完了・終了を表すので、完了体過去形が用いられる。

(2)あの人 は もう来ている。

Он	уже	пришел.
he	already	arrive, pf. past. m. sg.

完了体の過去形は通常動作の結果達成とその発話時点まで残る有効な結果の意味(=ペルフェクト的意味)を表すので、(1)(2)は同じになる。

(3)あの人 は まだ来ていない。

Он	еще	не	пришел / приходил.
he	yet	not	arrive, pf. past. m. sg. / arrive, impf. past. m. sg.

完了体動詞を用いる方が頻度としては多いが、不完了体動詞の場合もありうる。体

の競合の例である。

(4)あの人はまだ来ない。

Он еще не пришел / приходил.
he yet not arrive, pf. past. m. sg. / arrive, impf. past. m. sg.

(3)と同じ表現。不完了体は完了体よりまれである。

(5)あの人はまだ (すぐ) 来る。

Он скоро придет¹⁰.
he soon arrive, pf. pres. 3. sg.

(6) (あつ,) ワーニャが来た。

a) А, Ваня идет / пришел.
ah Vanya come, impf. pres. 3. sg. / come, pf. past. m. sg.

(6)

b) Вот Ваня подходит.
here Vanya come, impf. pres. 3. sg.

ワーニャが現に話し手に向かって進行しているのを観察して述べる場合は前者(6a)の pres.が最も普通で、後者(6b)は前者に比べて幾分特殊だが可能である。「発見の夕」に当る(6a)の右側は可能ではあるが、極めて稀である。

(7) おととい、あの人 came 来たよ。

Позавчера он пришел / приходил.
the day before yesterday he arrive, pf. past. m. sg. / arrive, impf. past. m. sg.

完了体は到着して今も逗留している事をさす。不完了体は到着したという事実が過去にあったことのみを指し、通常現在はいないつまり、到着して帰ったことを暗示する。この動詞に限らず「あける、閉める」のような往復運動の場合、完了体の過去形は結果残存を表し、不完了体の過去は結果消滅「～をしたけれども今は違う」を表す。ただし、結果残存の意味は、完了体動詞以外に知覚動詞などの不完了体も持っている。

(8) おととい、彼は来なかったよ。

Позавчера	он	не	пришел / приходил.
the day before yesterday	he	not	arrive, pf. past. m. sg. / arrive, impf. past. m. sg.

完了体動詞は、到着という事実以外に、動作の具体的日時、状況などと強く結びつき、具体的な意味を感じさせ、不完了体は到着という事実がそもそも存在していないことを表す。

(9) 私はあのリンゴをもう食べた。

Я	уже	съел	это	яблоко.
I	already	eat, pf. past. m. sg.	that	apple

「もう」という副詞が存在し、かつリンゴを丸々平らげたという、一回の具体的な動作の完了の意味なので、完了体動詞過去形が用いられる。

(10) 私はあのリンゴをまだ食べていない。

а) Я	еще	не	ел	это	яблоко.
I	yet	not	eat, impf. past. m. sg.	that	apple

б) Я	еще	не буду	есть	это	яблоко.
I	yet	will not	eat, impf. inf.	that	apple

不完了体過去形の否定は、通常、動作をまったくしない、未着手という意味になる。なお、не буду естьは「これから食べない」の意味であり、「食べないでおく」という意味は動詞の体では表現できず迂言的手段に頼らなければならない。

(11) あの人は今（ちょうど）そのリンゴを食べています／食べているところです。

Он	как раз	сейчас	ест	это	яблоко.
he	just	now	eat, impf. pres. 3. sg.	that	apple

ロシア語には進行の意味を表す形式はなく、文脈や「いま、～しているところ」などの語彙の助けにより不完了体の動詞が進行の意味を表す。

(12)

a) 窓が開いている.

Окно открыто.

window open, pf. ppastp. n. sg.

(12)

b) 窓が開いていた.

Окно было открыто.

window be past. n. sg. open, pf. ppastp. n. sg.

完了した動作の結果としての状態（ペルフェクト）に焦点を当てる場合には、完了体動詞から形成される受動分詞過去形を文の述語にして表現する。特に現在の時点とのつながり「いま～の状態にある」を述べる時(12a)には英語の be 動詞に当る語 было は用いられない。それに対して現在とのつながりとは無関係に、過去の時点である動作が行われたということのみを述べる場合（アオリスト）には be 動詞に当る語、(12b) の例では было が用いられる。

(13) 私は毎朝新聞を読む／読んでいます。

Каждое утро я читаю газету.

every morning I read, impf. pres. 1. sg. newspaper

現在の習慣を表す場合は不完了体の現在形で示す。習慣か現在進行中の動作なのかの判別は文脈や「毎日」などの状況を表す語 [状況語] により示す。過去の習慣であれば、不完了体の過去形で表現される。（ただし、ロシアには現在のところ新聞配達という制度がない）。

(14) あなたはあなたのお母さんに似ている。

Вы похожи на вашу маму.

you like, adj. pl. to your mother

ロシア語では「似ている」「結婚している」という状態を表現する際には動詞は普通使われない。「似ている похожий」の場合には主語と性・数の一致した形容詞、「結婚している」の場合、男性は主語と性・数の一致した形容詞「妻帯者である женатый」,

女性が主語の場合、主語と性・数が一致しない（のでロシア語文法では副詞扱いの）語「人妻の状態にある замужем」になる。

(15) 私はその頃毎日学校へ通っていた。

а) Тогда	я	ходил	в	школу	каждый день.
at that time	I	go, impf. past. m. sg.	to	school	every day

б) Тогда	я	хаживал	в	школу	каждый день.
at that time	I	go, impf. past. m. sg.	to	school	every day

現代ロシア語には習慣相といった特別な形はなく、不完了体で表される。(15)は移動動作なので、反復、習慣を表す不完了体不定動詞が用いられている。ただし、18世紀なら хаживал という、遠い昔に行なわれた多回体の動作を表す形があった。現代語でも、бывало という小詞を(15a)に用いる事で統語的に表せるが、遠い過去の話というニュアンスになり、かつ話し言葉では使用がまれな文体的特徴をもつ。

(16) 私はモスクワに行ったことがある。

Я	был	в	Москве.
I	be, impf. past. m. sg.	in	Moscow

「～したことがある」というように、「今は異なる、今はもう違う」という発話時点と隔絶した動作、回顧的な事象は不完了体によって表現される。

(17) やっとバスは 走り出した／走り始めた。

Наконец-то	автобус	тронулся (поехал / пошел).
finally	bus	start, pf. past. m. sg.

この場合、乗り物の出発を表す語彙 тронулся が最も使用頻度が高い。通常、一回の具体的な移動の開始を表す時には完了体動詞が用いられ、接頭辞 по+移動動詞 ехал/шел の形式となる。ただし、開始動作であっても何度も反復されると通常不完了体の動詞が用いられる。

(18) きのう彼女はずっと寝ていた。

Вчера	она	спала	весь день.
yesterday	she	sleep, impf. past. f. sg.	all day

状態は完了体で表される場合と不完了体で表される場合がある。(12)に見るように、完了体の場合、完了した動作の結果としての状態（ペルフェクト）に焦点を当てるときに用いられ、通常その前や後の動作とのつながりが述べられる。不完了体は、事実そのもの、つまり、その前後の事態とのつながりを考えずに、ある動作が行なわれたという事実のみを述べる際に用いられる。

(19) 私はそれをちょっと食べてみた。

a) Я	отведал	этого.	
I	try, pf. past. m. sg.	it	
b) Я	чуть	попробовал	это.
I	a little	try, pf. past. m. sg.	it

ロシア語では(19)「私はそれをちょっと食べてみた。」の場合は体の問題ではなく、語彙の問題である。(19a)では試行の意味「～を試してみた」を動詞 отведал そのものが表し、(19b)では, чуть「ちょっと」попробовал「試した」で表している。もっとも、「ちょっと」が試行でなく、「しばらく」という意味なら、別の問題になる。接頭辞 поなどを用いて「しばらくの間, ちょっと～する」という意味を表す完了体形は、接頭辞のついてない基動詞の、アクツィオンスアルトを表現する有効な手段となっている。例. 不完了体 читать「読む to read」→完了体 почитать「ちょっと読む to read for a while」。ちなみに、不完了体 читать「読む」のペアとなる完了体は прочитать であり, почитать「ちょっと読む to read for a while」はペアではない別の動詞である。

(20) あの人はそれをみんなに分け与えた。

Он	раздал	это	всем.
he	distribute, pf. past. m. sg.	it	to everyone

この例で接頭辞 раз は分配を表している。

(21) さあ、私たちは行くよ！

a) Ну, мы пойдём.
well we start, pf. pres. 1. pl.

(21)

b) Ну, мы пошли.
well we start, pf. past. pl.

現在、一回限りの動作なので完了体が用いられる。ニュートラルな文体では完了体現在形の一人称複数形が用いられる(21a)。非公式的な場面での口語体ならば出発を表す接頭辞 по-を加えた移動動詞の過去複数形も用いられる(21b)。

このように完了体は、形態上の時制の意味と実際の文脈で表される時の意味が異なること（いわゆる時制形態の転用）が決してまれでなく、ロシア語では、動詞の時制のカテゴリーよりも体のカテゴリーが優先するとされる。

(22) 地球は太陽の周りを回っている。

Земля вращается вокруг Солнца.
Earth move, impf. pres. 3. sg. around Sun

「蒔いた種は刈らねばならぬ」(Aをすれば必然的にBという結果になる)のように、原因・理由が結果・帰結に必ずつながるという絶対的継起性を表す恒常的真理は完了体が表し、それ以外の恒常的な真理は、不完了体の現在形が表す。

(23) あの木は今にも倒れそうだ。

Это дерево вот-вот упадет.
that tree just fall, pf. pres. 3. sg.

「いまにも～が起こりそう」というように、好ましくない動作が話し手の意志と関わりなく、心ならずも起こってしまうかもしれないという危惧の念の表明は完了体固有の用法で、とくに危惧の念を表す вот-вот がつくると危惧の念がより鮮明になる。

(24) (私は) あやうく転ぶところだった。

Я чуть (было) не упал.
I almost very nearly not fall, pf. past. m. sg.

うっかり起こりかけたことも *чуть не* + 動詞過去形, 大半の場合は完了体動詞で表現される。小詞 *было* が入ると若干古いという感じを受ける。

(25) 明日お客が来るので, パンを買っておく。

Я	куплю	хлеба,	так как	завтра	придут ¹⁰	гости.
I	buy, pf. pres. 1. sg.	bread	as	tomorrow	arrive, pf. pres. 3. pl.	guests

日本語の「買っておく」のような、「～しておく」という意味の補助動詞的な意味はない。

(26) 私はモスクワに行った時, この袋を買った。

Когда	я	был	в	Москве,	я	купил	этот	пакет.
when	I	be, impf. past. m. sg.	in	Moscow	I	buy, pf. past. m. sg.	this	packet

モスクワで購入した場合の例である。

(27)

a) 私はモスクワに行く時, この袋を買った。

Когда	я	ехал	в	Москву,	я	купил	этот	пакет.
while	I	go, impf. past. m. sg.	to	Moscow	I	buy, pf. past. m. sg.	this	packet

モスクワへの往路に購入の意味なら, 移動動詞定動詞の過去が用いられる。定動詞の過去形は通常進行中の動作を表す。

(27)

b) 私はモスクワに行く前に, この袋を買った。

Перед тем как	поехать	в	Москву,	я	купил	этот	пакет.
before	go, pf. inf.	to	Moscow	I	buy, pf. past. m. sg.	this	packet

(28) 私は彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。

Я	знал,	что	он	купил	этот	пакет	на	рынке.
I	know, impf. past. m. sg.	that	he	buy, pf. past. m. sg.	this	packet	at	market

ロシア語の複文は基本的に相対テンスである。主節の動詞と従属節の動詞の時制の一致はなく、主動詞と従属節の動詞の時制の相対関係で時間関係が示される。すなわち、主節よりも先行する時間を従属節が表すなら、従属節の中の動詞は過去形、同時動作を表すなら現在形、後続動作を表すなら未来形あるいは未来を表す完了体現在形というのが原則である。(28)の場合、知った時点よりも前に買うという動作が起こっているから従属節の中の動詞が過去形になっている。ただし、この原則に従わない例もまれではない。動詞の語彙と体との相関関係で時制形は最終的には決まるが、その詳細な仕組みはまだ説明されていない。

略号・記号

pf.=完了体, impf.=不完了体, inf.=不定詞, pres.=現在形, past.=過去形, ppastp.=受動分詞過去, 1, 2, 3 =1, 2, 3 人称, sg.=単数, pl.=複数, m.=男性形, n.=中性形, f.=女性形。→派生の基が矢印の左, 派生形が矢印の右を示す。

謝意

本稿の作成に際して、本学大学院博士後期課程 大谷多摩貴氏、コベルニック・ナディヤ氏、本学特任外国語教員 DAVKOVA Irina 氏、外務省研修所講師 HIGASHIGanna 氏、KONYAKHIN Vasilij 氏の協力を得た。ここに記して感謝したい。ただし誤りが発見された場合、それは中澤の責めに帰すものである。

注

1. 古代（古期）ロシア語には複雑な時制体系があり、時代が下るにつれて時制形態が減少し、それと反比例して体のカテゴリーが確立してきたというのが定説になっている。See Ремчукова Елена.Н. (2004:10).
2. ロシア語学の用語は、一般言語学的用語とずれがあることがまれではない。本稿では、完了体・不完了体（一般語学的には完了相・不完了相）と個別的な意味を表す用語以外は一般言語学で用いられている用語を優先し、一般言語学的用語の直後の [] でロシア語学の用語を示す。
3. Зализняк, Анна А., Шмелев, Алексей Д.によれば, быть は例外でどちらの体にも属さない。See Зализняк, Анна А., Шмелев, Алексей Д. (2000:10).
4. See Ремчукова, Елена Н. (2004:66).

- 5.例えば Авилова, Наталья С. See Авилова, Наталья С. (1976:28-41).
6. See Бондарко, Александр В. (1980:604-613).
7. See Маслов, Юрий С. (1959:231-236, 239-245, 251-271, 307-312).
8. See Гловинская, Марина Я. (1982:7-19).
- 9.ロシア語では空間中の移動動作を表すとき、媒体利用・無利用に関して整然とした体系をなす移動動詞という動詞群が用いられる。本稿では、移動の手段に関しては特に必要がない限り、ехать（交通手段利用）-идти（交通手段利用の無表現）の対立のうち、無標項である后者 идти の系列を用いることとする。
- 10.本稿2 ページ目にも記したが、完了体の非過去形、たとえば、придет に対する、一般に認められる用語はない。非過去形、現在・未来形、現在形、未来形などが主に用いられている。本稿では形態を優先し現在形と呼ぶ。英訳するならば、придет は形態的には現在形であるが、意味的には未来の事態を表すので、will arrive となる。

参考文献

主要なもののみを挙げる。

- Авилова, Наталья С. 1976. *Вид глагола и семантика глагольного слова*, М.:Наука.
- Бойко, Анна А.1997. *Словарь-справочник*, СПб:Издательство Разумовой Н. А.
- Бондарко, Александр В.1971. *Вид и время русского глагола*, М.:Просвещение.
- Бондарко, Александр В. 1980. «Употребление видов», *Русская грамматика*, М.:Наука.
- Виноградов, Виктор В. 1947. *Русский язык*, М.:Высшая школа.
- Гловинская, Марина Я.1982. *Семантические типы видовых противопоставлений русского глагола*, М.:Наука.
- Гловинская, Марина Я. 2001. *Многозначность и синонимия в видо-временной системе русского глагола*, М.:Русские словари.
- Зализняк, Анна А., Шмелев, Алексей Д. 2000. *Введение в русскую аспектологию*, М.: Языки русской культуры.
- Исаченко, Александр В.1960. *Грамматический строй русского языка в сопоставлении со словацким*, Т. II. Братислава.
- Маслов, Юрий С. 1959. Глагольный вид в современном болгарском литературном языке.- В сб.: *Вопросы грамматики болгарского литературного языка*, М.: АН СССР.
- Маслов, Юрий С. 1984. *Очерки по аспектологии*, Л.:ЛГУ.

- Падучева, Елена В. 1998. “Семантические источники моментальности русского глагола в типологическом ракурсе”, in *Типология вида/проблемы, поиски, решения*, Ed. by М. Ю. Черткова, М.: Языки русской культуры.
- Рассудова, Ольга П. 1968. *Употребление видов глагола в современном русском языке*, М.: Русский язык.
- Рассудова, Ольга П. 1982. *Употребление видов глагола в современном русском языке*, М.: Русский язык.
- Ремчукова, Елена Н. 2004. *Морфология современного русского языка/ Категория вида глагола*, М.: Флитна.
- Comrie, Bernard. 1976. *Aspect*, Cambridge University Press. Cambridge.
- Comrie, Bernard. 1985. *Tense*, Cambridge University Press. Cambridge.
- Forsyth, James. 1970. *A grammar of aspect: usage and meaning in the Russian verb*. Studies in the Modern Russian Language, extra volume, Cambridge: University Press.
- Jakobson, Roman. 1984. *Russian and Slavic Grammar Studies 1931-1981*, Berlin · New York · Amsterdam: Mouton Publishers.
- Vendler, Zenon. 1967. «Verbs and Times», in *Linguistics and Philosophy*, Ithaca NY: Cornell University Press.